



TITLE:

# 京大東アジアセンターニューズレター 第541号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター

---

CITATION:

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター. 京大東アジアセンターニューズレター 第541号. 京大東アジアセンターニューズレター 2014, 541

ISSUE DATE:

2014-10-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/191021>

RIGHT:

2014 年 10 月 20 日発行 第 541 号

## CONTENTS

東アジアセンターのホームページリニューアルのお知らせ .....	1
東アジア経済研究センター支援会総会のご案内 .....	2
アジア自動車シンポジウムのお知らせ .....	3
「中国経済研究会」のお知らせ .....	4
上海街角インタビュー ⑤ .....	5
【中国経済最新統計】 .....	8

## 東アジアセンターのホームページリニューアルのお知らせ



先にニュースレター532号にて「センター協力会の解散とセンター支援会への移行について」をお知らせいたしました。その中で、本センターが、新たな支援会と緊密に協力して取り組んでいくことを約束しました2014年度事業の一つに「東アジアセンターのホームページの充実」を挙げました。その第一歩として本センターのホームページをこのたびリニューアルいたしました。英語版・中国語版の作成も含め今後もホームページの一層の充実を図っていく予定です。新しく

なったセンターホームページ

(<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~shanghai/>) を一度ご訪問いただければ幸いです。

(文責：京都大学東アジア経済研究センター 矢野剛)

## 東アジア経済研究センター支援会総会のご案内

---

東アジア経済研究センター支援会

会員各位

2014 年 10 月 20 日

### 東アジア経済研究センター支援会総会のご案内

経済学研究科長 岩本武和  
東アジアセンター長 徳賀芳弘

拝啓

日頃より東アジア経済研究センターの活動にご協力いただきまして、ありがとうございます。

さて、早速でございますが、下記の要領にて、支援会発足後第 1 回の総会を開催することになりましたのでご案内申し上げます。

日時： 2014 年 11 月 4 日（火） 12 時～12 時 30 分予定

場所： 京都大学経済学研究科（法経学部東館）8F リフレッシュ R

（ご参加人数によっては場所の変更もございます。その場合は、当日法経学部東館の 1F にてご案内します）

#### 議事次第

第一号議案：支援会発足について・会則について・会長、理事、幹事の推薦

第二号議案：財産の引継ぎについて

第三号議案：事業計画について

ご案内から開催日までの期間が短く、ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご出席のほどお願い申し上げます。

なお、10 月 28 日（火）までに下記の URL により出欠票をご記入の上、支援会事務局（[eastasia\\_shienkai@yahoo.co.jp](mailto:eastasia_shienkai@yahoo.co.jp)）まで返送いただけますと幸いです。

敬具

総会のご案内リンク：<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~shanghai/archives/482>

## アジア自動車シンポジウムのお知らせ



主催

京都大学東アジア経済研究センター

共催

東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点

東京大学ものづくり経営研究センター

後援

京都大学東アジア経済研究センター支援会(予定)

### アジア自動車シンポジウム アセアン統合にいかに備えるか

—日系メーカーが取り組むべき課題を検討する—

■京都会場 2014 年 11 月 8 日(土) 13 時

京都大学法経東館 2 階三番教室

■東京会場 2014 年 11 月 10 日(月) 13 時

京都大学東京オフィス(品川インターシティA棟 27 階)

2010 年代後半にはアセアン統合が全面的に進展する中、東南アジア自動車市場が急速に拡大することが予想されている。中国の人口のおよそ半分の 6 億人を有するアセアン諸国は、年間販売台数が 2000 万台に達した中国自動車市場のほぼ半分の 1000 万台を一つの目標として、自動車の生産能力と流通経路を構築している。

日中関係の不安定性が消えない中、それを補うものとして日系自動車メーカーは東南アジアに磐石の基盤を構築しようとしている。本年のアジア自動車シンポジウムは「アセアン統合にいかに備えるか—日系メーカーが取り組むべき課題を検討する—」とのテーマの下にアセアン各国の課題を分析する。

総司会

13:00-13:10

挨拶 京都大学大学院経済学研究科長 岩本武和

13:10-14:00

京都大学大学院経済学研究科 教授 塩地 洋 アセアン統合に日系企業はいかに備えるか(仮題 以下同)

14:00-14:30

東京都市大学都市生活学部 教授 井上 隆一郎 勝ち組タイはアジアのデトロイトになれるか

14:45-15:15

鹿児島県立短期大学 教授 野村 俊郎 低価格環境車は新顧客層を創出するか—インドネシア

15:15-15:45

城西大学経済学部 准教授 小林 哲也 フィリピン—販売拡大続くが、撤退するメーカーも

15:45-16:15

未定 輸入車増大し、現地生産は存続の危機—ベトナム

16:15-16:30

閉会挨拶

16:45-17:45

懇親会 参加費 2000 円(協力会会員は無料) シンポジウムは無料

参加の御申込は塩地 [shioji@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:shioji@econ.kyoto-u.ac.jp) に会場名、氏名・所属、懇親会出欠を御連絡ください。  
東京会場は定員 100 名、京都会場 200 名です。お早めにお申し込みください。

## 「中国経済研究会」のお知らせ

---

2014 年度第 4 回（通算第 43 回）の中国経済研究会は下記の要領で開催することになりましたので、ご案内いたします。大勢の方のご参加をお待ちしております。

### 記

時 間： 2014 年 10 月 28 日(火) 16:30－18 : 00

場 所： 京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館地下 1 階みずほホール

報告者： 馬 欣欣（京都大学大学院薬学研究科特定講師）

テーマ：「中国新型農村合作医療保険制度が医療サービスの利用に与える影響」

注：本研究会は原則として授業期間中の毎月第 3 火曜日に行います。2014 年度における開催(予定)日は以下の通りです。

前期：4月16日(火)、5月20日(火)、6月17日(火)、7月22日(火)

後期：10月28日(火)、11月18日(火)、12月16日(火)、1月20日(火)

（この研究会に関するお問い合わせは劉徳強（[liu@econ.kyoto-u.ac.jp](mailto:liu@econ.kyoto-u.ac.jp)）までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。）



## 上海街角インタビュー ⑤1

---

社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長（海外委員）

順利包装集団董事（在上海）

福喜多技術士事務所所長

福喜多俊夫

### 上海人は自国の世界遺産を誇りに思っているか

---

日本にも世界遺産は 18 カ所あるが、中国はイタリアに次いで世界第 2 位、47 カ所の世界遺産がある（世界文化遺産 33 カ所、世界自然遺産 10 カ所、世界文化と自然総合遺産 4 カ所）。

「富岡製糸場」の世界遺産登録が話題となったので、久々に中国の世界遺産を思い出した。上海には世界遺産はないが、隣の江蘇省蘇州市には「蘇州古典園林」があり、浙江省杭州には「杭州西湖」がある。しかし、上海に住んでいても中国人との間では殆ど世界遺産について話題になったことは無い。果たして中国人、特に上海の人は自国の世界遺産に関心を持ち、誇りに思っているのだろうか？

#### 1. 50 歳代前半の男性

世界遺産は正直言ってあまり関心はありません。他の人も同じじゃないでしょうか。

中国も各地にいくつか世界遺産がありますが、どちらかというと実用主義の観点（観光 客誘致）で申請しているのだと思います。一つは地方政府、役人達が自分の都市の知名度を上げて出世につなげたい。もう一つは観光局と観光業者、収入アップにつながります。私は世界遺産であるかどうかに関係なく、一度見ておきたいところには行きたいですし、一度見て面白くなければ世界遺産であっても 2 度と行こうとは思いません。

近年、中国も衣食問題から脱却し、ある程度豊かになったので旅行ブームが起こっています。でも、一般観光客は、昔からの知名度に沿って観光に行くとします。

#### 2. 20 歳代後半の女性

上海人は中国のどの地域にあるものであれ、自国の世界遺産を誇りに思っているのではないのでしょうか。私は中国に世界遺産がいくつあるか知りません



が、中国は歴史が長いから沢山あるのは当然です。中国の世界遺産は世界の宝だから国を挙げて大事にしましょう。(答えの中で自分は関心があるとは一言も言わなかった)

### 3. 40 歳代中頃の女性

私は世界遺産に全く関心がありません。中国に 47 カ所もあるなんて初めて知りました。

私が知っているのは万里の長城だけです。これは世界遺産でしょう？

たぶん、一番関心があるのは政府でしょう。中国政府は今、国民に旅行を奨励していますから、世界遺産は絶好の宣伝文句になります。

### 4. 30 歳代前半の女性

これまで世界遺産に関心をもったことはありません。多分、万里の長城、故宮、秦始皇帝陵は世界遺産じゃないですか？ 中国には 47 もあるのですか？

中国は大きいし、歴史が長いから沢山あっても不思議じゃないですよ。リストを見せてください。このリストの殆どを私は知っています。中国人の殆どの人が知っている場所です。でも、これらを世界遺産と承知している人は殆どいないのではないのでしょうか。

我々が誇りに思う場所が世界遺産であるかどうかはあまり関係ないです。

### 5. 40 歳代前半の男性

私はあまり関心がありません。有名な遺跡はいろいろ知っていますが、それが世界遺産に登録されているかどうか知りません。地元の観光業を振興するために政府ががんばって申請しているのでしょうか。中国人は自分の行きたいところへ行くけれど、外国からの観光客は世界遺産につられる人も多いと思います。中国の観光業振興に結び付くのなら世界遺産申請はいいのではないですか。

### 6. 20 歳代前半の女性

世界遺産という言葉は知っていますが、中国にあるかどうかは知りません。世界遺産を見に行きたいとも思いません。中国の名所旧跡はいつでも行けるから、今はお金と時間があれば外国へ行きたいです。今年の冬は北海道へ行ってきました。

## 7. 60 歳代後半の男性

中国の昔から有名な場所を順番に世界遺産に申請していったのでしょう。中国の文化や自然は世界に誇れるものです。私も誇りに思っています。世界遺産として世界に認められたのはうれしいことです。もっとも私はどれが世界遺産に登録されているか知りませんでした。

## 8. 20 歳代後半の女性

私は観光ガイドの資格を持っているので、中国の世界遺産についてはよく知っています。今は会社勤めですが、時々アルバイトで外国から来る観光客を案内するので、蘇州古典園林や杭州西湖はよく行きます。そのとき中国の世界遺産について説明します。私が観光ガイドだからかもしれませんが、私は中国の世界遺産を誇りに思っています。

中国の世界遺産の大部分は世界的に有名な観光スポットで、名前を聞けば中国人だけでなく我々日本人もよく知っているところが多い。四川省の九寨溝、チベット・ラサのポタラ宮、西安の兵馬俑、万里の長城、故宮博物館、杭州西湖など皆さんもよくご存じだと思う。私も 10 カ所以上訪問している。

しかし、上海人は話を聞いた殆どの人が世界遺産には関心がなかった。しかしそれは、その場所に関心がないという意味ではなく、彼らは中国の文化・自然遺産には誇りを持っている。そのことが世界遺産であるかどうかに関心がないということである。

以上





## 【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工 業 付 加 価 値 増 加 率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億ドル)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005 年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006 年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007 年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008 年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009 年	9.1	11.0	15.5	▲0.7	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010 年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011 年	9.2	13.9	17.1	5.4	24.0	1549	20.3	24.9	1.1	9.7	13.6	14.3
2012 年	7.7	10.0	14.3	2.7	20.7	2303	7.9	4.3	▲10.1	▲3.7	13.8	15.0
1 月				4.5	25.3	273	-0.5	-15.0	4.6	10.8	16.6	14.8
2 月		21.3		3.2	—	-315	18.3	40.3	38.7	-0.9	17.8	15.0
3 月	8.1	11.9	15.2	3.6	21.1	53	8.8	5.4	-6.5	-6.1	18.1	15.7
4 月		9.3	14.1	3.4	19.2	184	4.9	0.4	-26.1	-0.7	17.5	15.4
5 月		9.6	13.8	3.0	21.0	187	15.3	12.7	-6.1	0.0	17.9	15.7
6 月	7.6	9.5	13.7	2.2	21.8	317	11.3	6.3	-16.3	-6.9	18.5	16.0
7 月		9.2	13.1	1.8	20.6	251	1.0	5.7	-7.8	-8.6	18.9	16.0
8 月		8.9	13.2	2.0	19.4	267	2.7	-2.7	-12.7	-1.4	18.4	16.1
9 月	7.4	9.2	14.2	1.9	23.1	277	9.8	2.3	-6.4	-6.8	19.8	16.2
10 月		9.6	14.5	1.7	22.4	320	11.5	2.2	1.8	-0.2	14.6	15.9
11 月		10.1	14.9	2.0	20.0	196	2.8	-0.1	-8.7	-5.4	14.5	15.7
12 月	7.9	10.3	15.2	2.5	18.8	316	14.0	6.0	-7.8	-4.5	14.4	15.0
2013 年	7.7	9.7	11.4	2.6								14.1
1 月				2.0	20.8	291	25.0	29.0	-12.4	-3.4	15.9	15.4
2 月				3.2		153	21.7	-14.9	-35.6	6.3	15.2	15.1
3 月	7.7	8.9	12.6	2.1	21.5	-9	10.0	14.2	-19.7	5.7	15.7	14.9
4 月		9.3	12.8	2.4	19.8	182	14.6	16.6	13.9	0.4	16.1	14.9
5 月		9.2	12.9	2.1	19.7	204	0.9	-0.1	-14.4	0.3	15.8	14.5
6 月	7.5	8.9	13.3	2.7	19.9	271	-3.3	-0.9	-17.3	20.1	14.0	14.1
7 月		9.7	13.2	2.7	20.2	178	5.1	10.8	1.2	24.1	14.5	14.3
8 月		10.4	13.4	2.6	21.4	285	7.1	7.1	-11.7	0.6	14.7	14.1
9 月	7.8	10.2	13.3	3.1	19.6	152	-0.4	7.4	-16.8	4.9	14.2	14.3
10 月		10.3	13.3	3.2	19.2	311	5.6	7.5	-8.2	1.2	14.3	14.1
11 月		10.0	13.7	3.0	17.6	338	12.7	5.4	-9.3	2.3	14.2	14.2
12 月	7.7	9.7	13.6	2.5	17.2	256	4.3	8.6	-3.4	-42.6	13.6	14.1
2014 年												
1 月				2.5	19.8	319	10.5	10.8	-8.6	-4.5	13.2	14.3
2 月				2.0		-230	-18.1	10.4	1.3	4.0	13.3	14.2
3 月	7.4	8.8	12.2	2.4	17.3	77	-6.6	-11.3	6.1	-1.5	12.1	13.9
4 月		8.7	11.9	1.8	16.6	185	0.8	0.7	0.5	3.4	13.2	13.7
5 月		8.8	12.5	2.5	16.9	359	7.0	-1.7	8.4	-6.6	13.4	13.9
6 月	7.5	9.2	12.4	2.3	17.9	316	7.2	5.5	10.3	0.2	14.7	14.0
7 月		9.0	12.2	2.3	15.6	473	14.5	-1.5	14.0	-17.0	13.5	13.4
8 月		6.9	11.9	2.0	13.3	498	9.4	-2.1	5.2	-14.0	12.8	13.3
9 月				1.6		309	15.1	7.2	9.4	1.9	11.6	13.2

- 注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。  
2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1 月と 2 月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、（ ）内の数字は 1 月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。  
3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の 86%（2007 年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。